

## (43) 高倉神社 (たかくらじんじゃ)

鎮座地：三重県伊賀市西高倉1046

TEL：0595-21-5864

参拝日：2013年12月11日、2015年2月4日

### 高倉神社

主祭神：高倉下命

祭神：倭得玉彦命

### 境内神社

八幡神社祭神：應神天皇、火産靈神、高■神（■：雨冠+龍）、少彦名、倉稻魂命、大山祇命、蛭子命

春日神社祭神：天兒屋根命、大山咋命、大物主命、白山姫命、武速須佐男命、紐結命



石柱と鳥居



鳥居と石段



拝殿

### 高倉神社略記 (境内看板)

祭神 高倉下命

神武天皇東征の功神にして倉庫守護 延命長寿の靈驗あり、七代の孫倭得玉彦命この地に移り住んで祖神を祀るを最初とする 東、西高倉地区の氏神なり 創建は古く従五位下の神階をうけ、国史見在社であります。現社殿は天正2年(1574年)に伊賀国守護職仁木長政の造営、一間社流造りで桧皮葺の本殿を中央に右に八幡社、左に春日社と三社信仰を今に伝える古社。日本最古の補陀落寺町石の補陀落寺は当社の別当寺であります。

主祭神であるタカクラジ命は神を祀る高い倉の主だそうである。倉は穀物、商品、家財などを保管・貯蔵する建物で、今日の倉庫の「庫」は古代では武器庫を指す。本神の御神徳は倉庫業の守護であるので、境内には社団法人日本倉庫協会の鎮魂の碑由緒の石碑があり、「倉庫の営みは永遠であります。先人の英知が今日を築き、今日の努力が明日に連なります。連続して絶えることのない生命を念ずる倉庫関係者の思いを込めて、業界の先達の靈安かれと、この地に、倉守の御祖神が鎮座ります縁をもって鎮魂之碑が建立されました。鎮魂之碑建立二十周年にあたり、建立の意をここに記します。昭和61年7月13日」と記されている。また、いろいろな県の倉庫協会からの記念植樹と石碑が建っている。

伊賀市教育委員会による境内案内板によると、本殿と向かって右にある八幡社本殿は1間社流造檜皮葺で土台上に建ち、組物連三斗、中備かえる墓股、間斗束、



本殿と境内神社



手水舎

妻飾り、虹梁大瓶束で、様式平面共によく似ている。向かって左の春日社本殿は伊賀地方では珍しい一間社隅木入春日造で檜皮葺とし、組物出組、中備臺股、間斗束、妻飾り木連格子で屋根は千木鯉木で飾る。天正2年(1574)仁木長政本願造立の棟札を残し、建立年代が明確である。他の二社も同時期と考えられている。彫刻や彩色には桃山時代の華麗な特色がよく表れており、県内の代表的な社殿である。その他境内には、国指定天然記念物シブナシガヤ、県指定のアカマスズ自生地である。高倉神社本殿と境内社は国指定重要文化財・建造物として大正15年に指定され、昭和34年には棟札が追加指定されている。境内にはその他拝殿、幣殿、神饌所、社務所、控所、神明舎、手水舎がある。

注連縄の張られた御神木はスギの大木2本と今回は行けなかったがコリドールロードを隔てて一の鳥居である両部鳥居の脇に立っているあるケヤキの巨木だそうである。その他社叢にはサルスベリ、ヒノキ、カゴノキ、タブノキなどの大木やモミノキ、モミジ、クスノキ、ヤブツバキ、スギ、シュロ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、チャノキ、サカキ、サザンカ、アカガシ、アラカシ、カナメモチ、シロダモ、アリドオシ、コシアブラ、ツガ、オオモミジ、アオキ、シブナシガヤ、カヤ、マンリョウ、ナギ、ケヤキ、クリ、アヤマスズなどがあり、シブナシガヤとアヤマスズは天然記念物に指定されている。

重要祭典：祈年祭 2月21日、御灯際 4月第2土曜日（但、隔年）、倉暉祭夏祭 7月13日、

由 緒：三重県神社誌

当社の創祀については詳らかにし難い。社傳には高倉下命の七世の孫倭得玉彦命が当地に住し高倉下命を祀り、氏の社と定められたのが創祀と伝えられている。『三代実録』の清和天皇 貞観三年(861)4月10日条に伊賀国正六位上高蔵神を従五位下に叙する記事があり、これを国史上の初見とする国史見在社である。近世の地誌類には高倉社或いは高倉大明神高蔵神社等の社名で散見される。江戸時代を通じ近郷の人々の崇敬の篤い神社であった。明治40年(1907)境内社八幡神社に西高蔵鎮座 無格社秋葉神社二社 同籠神社 同粟島神社 同稻荷神社同山神社 東高倉鎮座 無格社秋葉社二社 同瘡山社 同稻荷社を、又境内社春日に西高倉鎮座春日神社 同津島神社二社 東高倉鎮座春日社 日吉神社 同金刀比羅社 同白山社 同津島社をそれぞれ合祀した。さらに同42年にも八幡神社に 西高倉鎮座の蛭子神社を合祀している。大正5年(1916)郷社列格。昭和11年(1936)には縣社列格のうえ、三重県より神饌幣帛料供進神社の指定をうけた。尚、明治以降久邇家の崇敬篤く、同家より度々の幣帛料等の奉納をうけている。